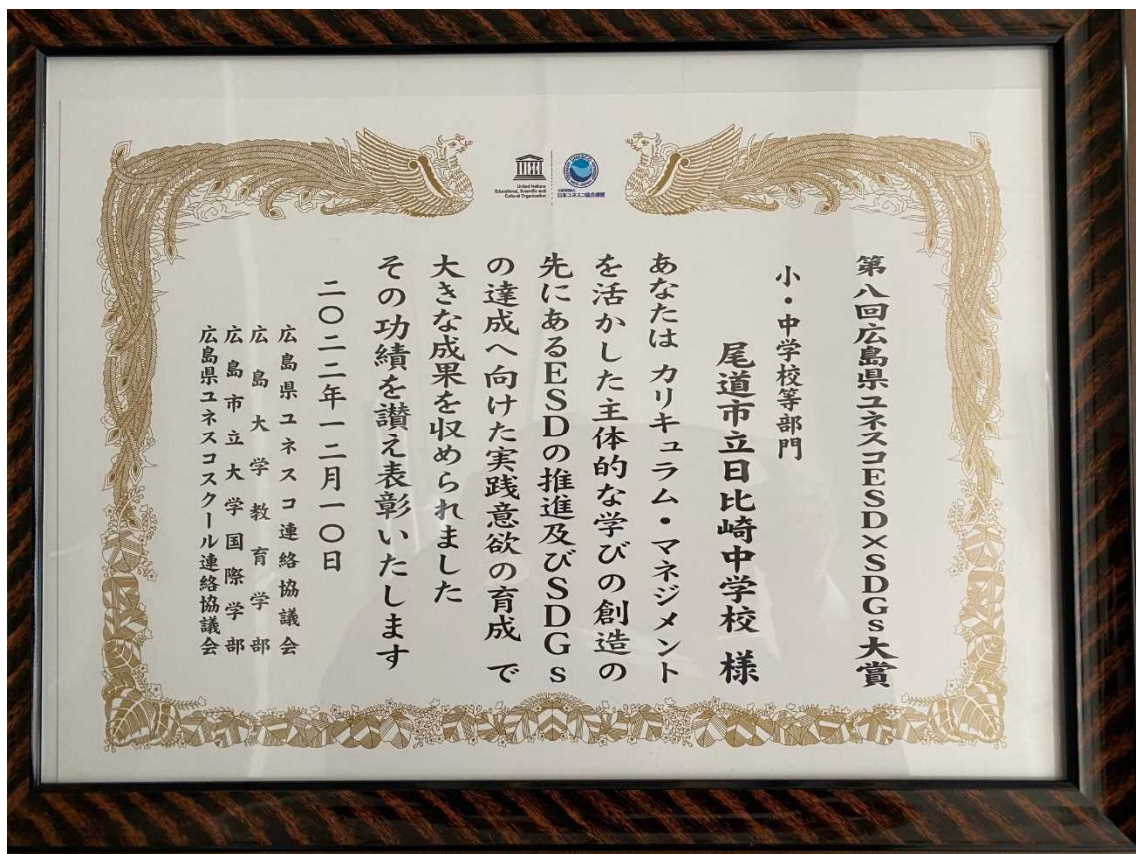


第8回広島県ユネスコESD×SDGs大賞 小中学校部門表彰を受けました。

本校研究主題

「カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びの創造～社会に開かれた教育課程づくりと一人一人の自己表現を基盤にした課題発見・解決学習～」

このたびの広島県ユネスコESD×SDGs大賞小中学校部門表彰を受けたのは本校1校だけです。本校がこれまで進めてきた教育活動(子供達の姿)が評価されての受賞です。特に、本校の研究テーマである「カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びの創造～社会に開かれた教育課程づくりと一人一人の自己表現を基盤にした課題発見・解決学習～」の取組が評価されたことが大変嬉しいことです。光栄に思っています。12月10日(土)に広島大学で表彰と実践発表があり、本校研究主任風盛先生がオンラインで今年の取組を発表し、二学期の終業式で生徒の皆さんに披露・報告しました。



令和4年12月10日(土) 受賞

第8回 広島県ユネスコ ESD×SDGs 大賞 応募用紙 (小・中学校等部門)

3 頁以内で作成ください。

受付日 (事務局記入欄)

令和4年 10月 12日

ふりがな 学校名	おのみちしりつひびざきちゅうがっこう 尾道市立日比崎中学校	ふりがな 校長名	みやさと ひろやす 宮里 浩寧
学校住所	〒722-0013 広島県尾道市日比崎町 23 番 1 号		ユネスコスクール加盟 (年) 申請予定 ☒ 有 ☐ 無
ホームページアドレス	http://www.onomichi.ed.jp/hibizaki-j/		児童生徒数 274名
ふりがな 担当者氏名	かざもり ふみや 風盛 文哉	電話番号	0848-22-6513
		FAX 番号	0848-22-2002
		メール	hibizaki-j@onomichi.ed.jp
〔学校の概要・沿革〕 本校では、研究主題及びサブテーマを次のように設定し、教育研究を行っている 研究主題「カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びの創造」 サブテーマ ～社会に開かれた教育課程づくりと 一人一人の自己表現を基盤にした課題発見・解決学習～			
ESD×SDGs 実践活動の テーマ	カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びの創造の先にある ESD の推進及び SDGs の達成へ向けた実践意欲の育成		
〔本活動の目的〕 カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びを通して、持続可能な開発のための教育 (ESD) を推進するとともに、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成へ向けた実践意欲を高めることで、見通しが不透明な社会を生き抜くために必要な、社会の課題を捉え主体的に課題解決できる力を身につけさせることを目的としている。			
〔本活動の概要〕 本校では、様々な教育活動を歯車として考え、歯車同士が絡み合う教育活動を実施することで、カリキュラム・マネジメントを推進している (図1)。教育活動の実施にあたっては、学校行事「赤船祭」と総合的な学習の時間「日比崎サバイバルプロジェクト (通称サバプロ)」をコアカリキュラムに設定し、2つのコアカリキュラムを核として、様々な教育活動 (各行事・各教科・地域社会・各領域・生徒指導) に相関性をもたせることを意識している。一連の教育実践そのものが、別紙資料に示す、ESD×SDGs につながるものであるが、以下では特に、①赤船祭に関する取組、②サバプロに関する取組、③授業研究に関する取組を例として整理する。  図1 本校のカリキュラム・マネジメントのイメージ			
①赤船祭に関する取組 赤船祭は、学校行事である体育的行事と文化的行事の総称で本校では1つの行事として系統的な取組として捉えている。赤船祭の実施に向けて、本校では特別活動の時間で議長団の運営による話し合い活動を設定している。集団の合意形成や個人の意思決定を生徒が主体となっていくことによって、「主体性」「コミュニケーション能力」を育成させるとともに目的意識をもって行事に向かうことをねらいとしている。また、生徒が赤船祭とつながりのある委員会活動を考案し、実施している。こうした活動は、ESD の推進に必要な社会の課題を捉え主体的に課題解決できる力を高めることに寄与するものであると考える。			

②サバプロに関する取組

サバプロは、総合的な学習の時間における防災学習をテーマにした学習活動である。具体的には、生徒が防災学習を通して、防災を自分達の身近な問題としてとらえ、地域と連携した災害に強い街づくりを目的としたプロジェクト型学習で進めている。学習内容は、SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」に対応しており、プロジェクト型学習によって、学びが主体的なものになり、課題を発見し解決する力の育成にもつながっている。また、地域社会との連携を密に行い、専門家による学習や尾道市役所と連携した学習リーダーの指導を行っている。生徒は地域社会と関わることで新たな発想や視点が芽生えるようになっている。

③授業研究に関する取組

本校では、本質的な問いを活かした単元開発、教科横断的な授業開発と全ての教科領域で話し合い活動（協働学習）に力を入れている。校内研修では、各教員が「本質的な問い」と「単元を貫く問い」と「個別の問い」を整理し交流することで、教科の関連性に気がつくことができ、教科横断的な授業の開発や教科の見方・考え方を高める授業の開発につながった。各授業者が個別に授業を行うのではなく、様々な教科・領域の関連性を意識して授業を行うことで、ESDの推進及びSDGsの達成に向けた実践意欲の向上につながるカリキュラム・マネジメントを行うことができる。

〔本活動の推進ネットワークと連携協力者がある場合には、具体的に記入して下さい。〕

○町内会

サバプロのフィールドワークガイド、生徒会執行部との避難訓練、生徒会執行部とのアルミ缶回収

○尾道市役所

サバプロでの職員の事前研修及びリーダー指導、選挙管理委員会と連携した生徒会役員選挙の充実

○事業所

U2 やイオンでの学習成果物の掲示、村上記念病院からの出前授業、EXILE と創るダンス授業の実施

〔本活動のスケジュール〕

各学期での生徒会執行部・赤船祭・サバプロの主な流れを示す。赤船祭とサバプロは、生徒主体が主体となる活動である。そのため、生徒会執行部が方向性を示し、進めていく流れとなっている。サバプロは、生徒会執行部のサバプロ部署が執行部以外のサバプロリーダー生徒と連携しながら学習の計画を立てる。また、赤船祭は生徒会執行部がスローガンを示し、執行部以外の赤船祭リーダーと連携しながら計画や運営を行う。また、赤船祭とサバプロを連動させており、赤船祭で結成した団体ごとにサバプロの学習を行っていく流れとなっている。各団は学年を縦割りにした学年集団である。

表2 各学期での生徒会執行部・赤船祭・サバプロの主な流れ

	生徒会執行部	赤船祭	サバプロ
前年度	組織結成，引継ぎ		プロジェクト発足
1 学期	計画，運営	体育競技の部	導入
2 学期	運営，組織解散	文化発表の部	展開
3 学期	新組織の結成		まとめ

〔本活動が持続可能な社会づくりに貢献する点〕

見通しが不透明な社会をたくましく生き抜くために、生徒の「主体性」「コミュニケーション能力」「自己を認識する力」「自分の人生を選択する力」「表現する力」をはぐくむことを通して、人生を豊かに生きる生徒の育成を図る。

〔本活動による学習の成果〕

令和４年度全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果（表１）及び教科に関する調査の結果（表２）を示す。話し合い活動の意義やスキルが高まるとともに、自尊感情や自己有用感の醸成につながっていることが分かる。また、学力的にも自治体平均を超えていることが分かる。

表１ 令和４年度 全国学力・学習状況調査（生徒質問紙の抜粋）

	質問	尾道市	本校	差
7	自分には、よいところがあると思いますか	81.5	86.7	+5.2
10	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	88.7	93.3	+4.6
17	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	74.4	81.1	+6.7
40	１，２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	65.5	78.9	+13.4
46	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	76.4	88.9	+12.5

表２ 全国学力・学習状況調査結果

	自校	尾道市	広島県	全国
国語	70	68	69	69.0
数学	56	50	50	51.4
理科	50	48	49	49.3

事務局 記入欄			